

羽咋市が目指す観光交流拠点づくりについて

< 背景 >

羽咋市における人口減少や少子高齢化の流れは加速度を増し進行。
平成26年2月、ホテル「ゆ華」の取得に伴い、市議会が千里浜IC周辺整備計画の策定及び早期実現についての附帯決議を可決。
平成26年4月に庁内横断組織として「はくい再生推進室」を創設し、交流人口と定住人口の拡大策や雇用創出など地域活性化策を推進するための施策を推進。

平成26年5月、日本創成会議(座長:増田寛也氏)において、2040年には20~39歳の女性の数が49.8%の市区町村で半減するという人口推計結果が公表されましたが、本市も「地域崩壊の危険性がある自治体」に該当。(本市:2010年 2040年、若年女性変化率 69.6%)

平成26年9月、国は地方創生と人口減少対策の窓口として、「まち・ひと・しごと創生本部」を創設。
「道の駅」を地方創生の拠点と位置づけ先駆的な取り組みを実施する自治体をモデル選定し、関係各省が連携した総合的支援を表明。

これらの流れを踏まえ、本市は観光交流拠点施設を核に、観光誘客の促進を図るとともに、生産・加工・販売・流通など循環型経済の構築を通じた6次産業化を推進し、産業及び地域振興を図る。
また、これらの取り組みにより若者や女性の雇用創出や人口減少対策を強力に進める。

(はくい版地方創生)



羽咋市が目指す観光交流拠点づくりについて

< 地域課題 >



羽咋市より北の全自治体で道の駅が存在(15か所)

1 人口減少及び高齢化進行

人口減少(H12年:25,541人 H22年:23,032人 H52年:12,866人(日本創成会議試算))
高齢化率上昇(H12年:23.8% H22年:30.9%)
34.1%(H26.4.1現在)

2 農村の衰退

耕作放棄地の増加
農業従事者の減少
農業従事者における高齢化の進行

3 能登半島の玄関口

能登半島の入口部分に位置し、「道の駅」の空白地帯となっている(左図参照)。

4 通過型観光地

日本で唯一車で走れる砂浜として名を馳せる「千里浜なぎさドライブウェイ」や北陸随一の五重塔を誇る日蓮宗北陸本山「妙成寺」などの歴史文化遺産が多数点在するものの、観光客の9割以上が日帰り観光客であるため、消費活動が弱く、地域経済の発展に結びついていない。



千里浜なぎさドライブウェイ

5 世界農業遺産認定地

日本で初めての世界農業遺産(GIAHS)認定地として、環境負荷の少ない循環型農法に取り組む生産者及びエリアの拡大(「奇跡のリンゴ」で知られる木村秋則氏の指導のもと、JAはくいと市が共同で取り組む自然栽培農法の普及)



ブランド米「神子原米」



羽咋市に飛来した朱鷺



のと里山農業塾で指導する木村秋則氏

羽咋市が目指す観光交流拠点づくりについて

< 国の制度概要 >

「道の駅」による地方創生拠点の形成

～モデル箇所の選定と総合的な支援～

国土交通省

元々、ドライバーが立ち寄るトイレ・休憩施設として生まれた「道の駅」は、その数1,000を超える中、それ自体が目的地となり、「まち」の特産物や観光資源を活かして「ひと」を呼び、地域に「しごと」を生み出す核へと独自の進化を遂げ始めています。

この進化する「道の駅」の機能強化を図り、地方創生の拠点とする先駆的な取組をモデル箇所として選定し、関係機関が連携の上、計画段階から総合的に支援します。

[ポイント]

- ・地方創生の拠点となる先駆的な「道の駅」の取組をモデル箇所として選定。
- ・関係機関が連携し、計画段階から総合的に支援。
- ・対象は地域外から活力を呼ぶ「ゲートウェイ型」及び地域の元気を創る「地域センター型」の「道の駅」の新たな設置又はリニューアル等の企画提案。

地域外から活力を呼ぶ ゲートウェイ型

インバウンド観光「道の駅」

外国人案内所、免税店、無料公衆無線LAN、EV充電設備など

観光総合案内窓口「道の駅」

地域全体の観光案内、宿泊予約窓口など

地方移住等促進「道の駅」

地方移住のワンストップ窓口、ふるさと納税の情報提供など

「道の駅」が 活力を呼び、雇用を創出 地域の好循環へ



地域の元気を創る 地域センター型

産業振興「道の駅」

地方特産品のブランド化、6次産業化など

地域福祉「道の駅」

診療所、役場機能、高齢者住宅など

防災「道の駅」

広域支援の後方支援拠点、防災教育など

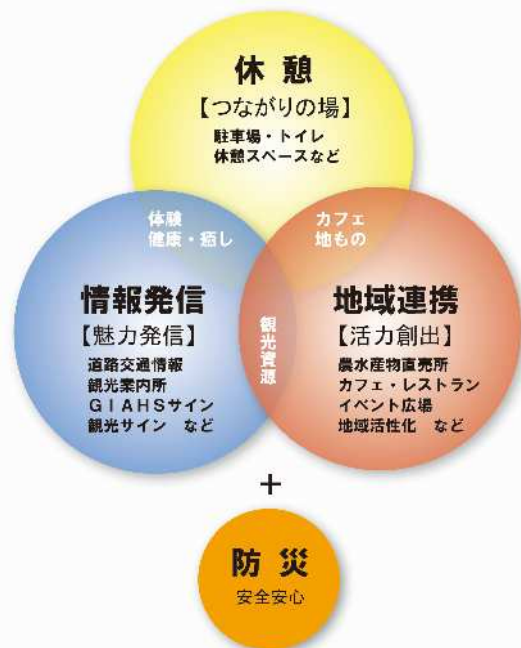
(機能を兼ねるタイプも想定)

羽咋市が目指す観光交流拠点づくりについて

< 施設のコンセプト >

人と自然が生み出す、魅力・活力・つながりの場の創出

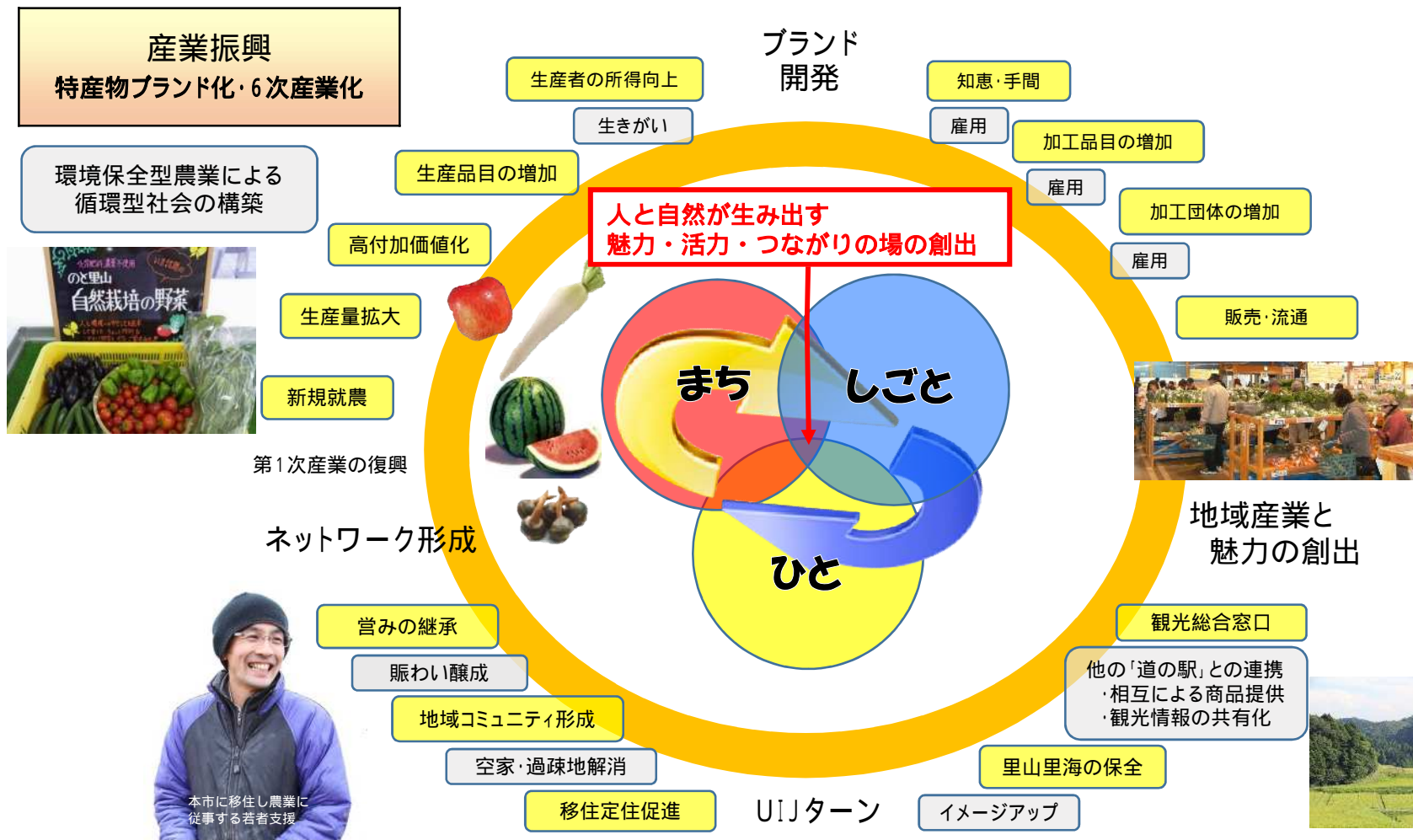
- 1 羽咋の魅力発信
世界農業遺産の認定地として、環境保全と生物多様性の具現
風光明媚な景観を活かした、感動やアクティビティの体感
常に新鮮で魅力ある情報の発信
- 2 羽咋の活力創出
産業と雇用を創出し、安全安心で豊かな生活の創造
地元の素材と知恵を活用し、ここにしかない商品づくりへの取り組み
健康や癒しの享受と地域活力の増進
- 3 羽咋の「つながりの場」の創出
地域住民同士のつながり強化と思いの共有
地域住民と来訪者とのふれあい・交流促進



のと里山海道千里浜IC周辺には、観光・レクリエーション施設が集積しており、第5次羽咋市総合計画(H23.3)でも、観光・レクリエーション拠点と位置づけられている。各施設との連携及び回遊性を確保し、さらには市全体への波及効果を図る。

羽咋市が目指す観光交流拠点づくりについて

< 道の駅の特徴 1 >



< 提案の先駆性・ポイント >

世界農業遺産システム認定地としての先駆的取り組みとして、JAはくいと市が共同で自然栽培農法(環境負荷の少ない循環型農業)を普及
 自然栽培農法: 木村秋則氏が実践する農薬・肥料・除草剤を使用しない農法
 安全安心な農産物の生産・加工・販売・流通による6次産業化の推進

< 実施内容 >

地元農水産物を活用した6次産業化のための加工施設や直売所の設置
 直接的な雇用に加え、地元生産者からの調達による雇用の創出
 耕作放棄地を活用した新たな農業スタイルの確立(景観保全への貢献)
 付加価値の高い地域特産品の開発、ブランド化の推進

羽咋市が目指す観光交流拠点づくりについて

< 道の駅の特徴2 >

防災
防災機能付与・後方支援拠点

- ・温泉施設の活用
- ・加工品の貯蔵、非常用発電機、ハイブリッド照明
- かまどベンチなど配備



千里濱なぎさ
ドライブウェイ
年間85万人来訪



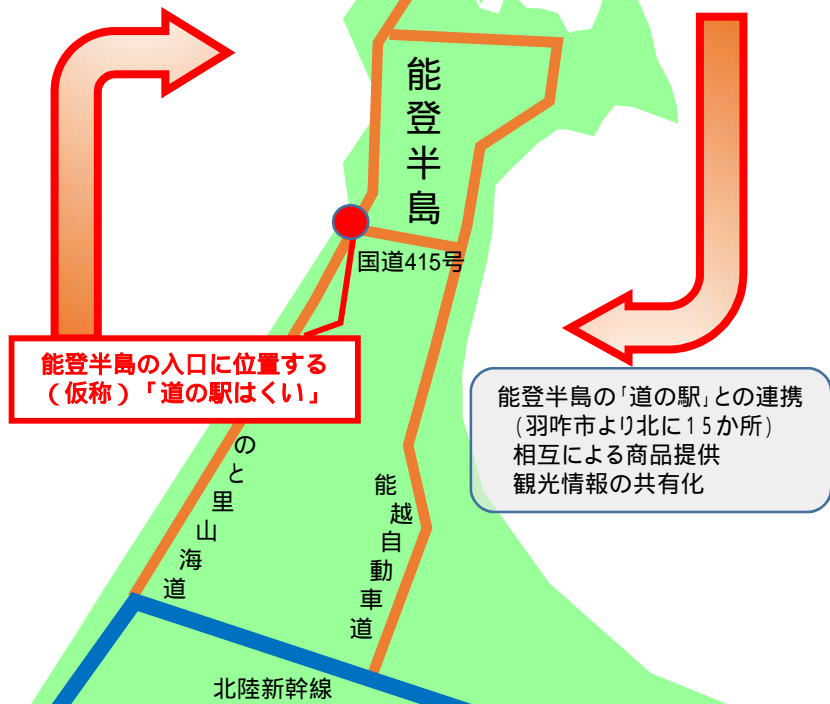
< 道の駅の特徴3 >

観光総合窓口
能登半島のゲートウェイ

平成23年6月、国連食糧農業機関は「能登の里山里海」を「世界農業遺産」に認定

- 能登半島の玄関口としての役割
- ・GIAHSポータル機能
 - ・道の駅ネットワーク

能登の里山里海を守り育てる
持続可能な循環型システム構築



< 提案の先駆性・実施内容 >

のと里山海道千里浜IC直近にある温泉施設との連携による避難所機能
地域住民及び千里浜海岸等への観光客の一時避難所機能
山間部や近隣市町への救援物資中継点としての役割
非常食や非常用電源確保等によるバックアップ機能

< 提案の先駆性・実施内容 >

関係機関と連携した広域観光案内機能
能登方面等の「道の駅」との相互連携
EV充電設備を設置し、電気自動車による周遊観光の促進